

中東情勢の現状と行方
～資源エネルギー・金融情勢の動向を左右する大国間パワーゲーム～

中国担当：田代秀敏研究員

<課題・関心事項> ※箇条書き 目安 3～5 件程度

- ① 中東産油国のオイル・マネーの対中投資
- ② グローバル金融センター建設での中東と中国との協力
- ③ 中東における中国の軍事的プレゼンスの増大

<解説>

■ 上記① 中東産油国のオイル・マネーの対中投資

安全保障そしてドル連動のため、オイル・マネーの最大の投資先は米国の金融市場である。しかし原油およびドルの暴落リスクを回避するための最大の投資先は中国である。国際通貨基金は今年4月発表の「世界経済見通し」で、ドル建て名目GDPで中国は日本を2011年に追い越し、世界第二の経済大国になると予測している。オイル・マネーの対中投資を日本経由にすることで、日本は世界第二の経済大国そして世界第二の資本市場の国際的地位を将来も維持できるのか？

■ 上記② グローバル金融センター建設での中東と中国との協力

中東産油諸国も中国も、通貨は兌換性に乏しいソフトカレンシーであり、ドル連動によって国際的価値を維持している。ドル衰退、原油枯渇、人口高齢化などに対処するための通貨のハードカレンシー化を実現するために、自前のグローバル金融センターの建設を目指している。ドバイが西アジアのグローバル金融センターとなるのと連動して上海がグローバル金融センターになるのを阻止して、東京はグローバル金融センターになれるのか？

■ 上記③ 中東における中国の軍事的プレゼンスの増大

中国はサウジ・アラビアやアラブ首長国連邦と外交関係を深める一方で、イランそしてエチオピアなどのアフリカ諸国を軍事援助し、中東に対する軍事的プレゼンスを東西から高めている。また、ハマスやヒズボラはイラン経由で中国製ハイテク兵器を入手し、イスラエルを軍事的に圧迫している。さらに、ホルムズ(Hormuz)海峡に近いパキスタン領内の戦略的要地であるグワダル(Gwadar)には、中国の資金と技術とで本格的な港が建設され、2007年3月から稼働している。こうした中国の中東における軍事的プレゼンス増強は、米国による中東の安全保障を揺るがし、ひいては中東産油諸国のドル連動を揺るがすのか？